



特集

AI・RPAの活用による業務改革

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.47 March.2020

contents

.....
巻頭随想
市町村リレー まちづくり夢づくり
苦言提言
地域シンクタンク
市町村の元気印



machijiman

第31回大月さくら祭り概要

※新型コロナウイルス感染防止のため
周遊バスの運行は中止いたします

ライトアップ期間：令和2年3月28日(土)～4月12日(日)

お問い合わせ先

大月市観光協会 0554-22-2942

大月市産業観光課 観光担当 0554-20-1829



シリーズ
ま・ち・自・慢

Otsuki-City

大月市

富士の眺めが日本一美しい街

大月市は、山梨県の東部に位置し、古くから甲州街道の宿場町であり、甲府方面と富士山方面に分岐する交通の要衝として発展してきました。緑豊かな自然から眺める富士山はとても美しく、『富士の眺めが日本一美しい街』としてPRしています。

また、桜の名所が市内各地に点在しており、山岳写真家である故白旗史朗氏が選定した富士山の眺めが特に素晴らしい『秀麗富嶽十二景』の岩殿山や真木お伊勢山では、桜と富士山が同時に楽しめます。

大月市観光協会は、平成24年の大月駅前開発に伴い、観光案内所を駅前に移転し、大月市の観光情報にとどまらず、山梨県の玄関口として、訪れる多くの観光客に山梨県全域の観光情報を提供しています。イベントの開催運営も行っており、毎年4月上旬には『大月さくら祭り』を開催し、市内の桜の名所を巡る、乗り放題の周遊バスを運行します。

例年、大月の美味しい食べ物の出店やコスプレイベントなど市内各所で様々なご用意をして皆様をお迎えします。地元の酒と美味しいものを満喫できるイベントです。

期間中はライトアップや花見席をご用意する予定ですので、ぜひ夜桜見物をお楽しみください。

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE

Vol.47 March.2020

Contents

Yamanashi JICHI no KAZE Vol.47 March.2020

まち自慢

大月市

02 巻頭随想

子どもから高齢者まで暮らしやすいまちナンバーワンを目指して
昭和町長 塩澤 浩

04 市町村リレー

富士川町

08 苦言提言

仲良くしよう
一般社団法人地方行政調査会事務局次長
前村 敦

09 特集「AI・RPAの活用による業務改革」

10 特集1 スマート自治体研究会中間報告書について

15 特集2 AI・RPAの活用による業務改革

17 特集3 RPA実証実験の取組みについて

20 講演録

26 地域シンクタンク

28 市町村の元気印

30 自治 Q & A

33 市町村調査研究事業

36 がんばっていま～す。

38 はつらつ!!市町村職員

40 市町村振興協会たより

時の人

編集後記



■表紙写真
ドラゴンパークの桜

甲斐市のドラゴンパーク（赤坂台総合公園）には、広大な芝生広場や甲府盆地が一望できる展望塔などがあり、家族連れなど多くの人で一年中にぎわっています。
暖かくなる3月、約260本の桜や季節の花が一斉に咲き誇り、公園は一年で一番美しい季節を迎えます。（写真：サンニチ印刷）

【甲斐市】

子どもから高齢者まで 暮らしやすいまち ナンバーワンを目指して

塩澤 浩 昭和町長



塩澤 浩 (昭和町長)

PROFILE

昭和35年 5月15日生まれ(59歳)
平成19年 4月 昭和町議会議員就任
平成23年 4月 山梨県議会議員就任
平成31年 2月 昭和町長就任

山伏川の桜並木(河東中島区)

昭和町は、甲府盆地のほぼ中央に位置し、県都甲府市に隣接し、面積が9・08平方キロメートルの県内では最も行政区画面積の小さいまちです。

町の西方に釜無川が流れ、「山」がなく平坦な地形で、古くから豊かな水の恵みを利用した穀倉地帯として発展してきました。昭和50年以降は、釜無・国母の両工業団地の整備と企業進出、町内で12地区におよぶ土地区画整理事業による都市基盤整備の推進、大型ショッピングセンターの進出など飛躍的な発展を遂げてまいりました。交通面では、中央自動車道甲府昭和インターチェンジを有し、国道20号線(甲府バイパス)、(主)甲府市川三郷線(昭和バイパス)、(主)甲府南アルプス線(アルプス通り)、(主)甲斐中央線などの幹線道路の整備がなされ、JR身延線の常永駅と国母駅の2つの駅があり、交通の要衝を担ってまいりました。

また、県都甲府市に近く、利便性も高いことが

ら宅地化の進展も著しく、県内の多くの自治体が人口減少している中であって、本町は、町制施行後の国勢調査において一度も人口減少したことがなく、県内でも有数の人口増加率が高い、便利で快適に暮らせる基盤の整った「選ばれるまち」として、成長を続けています。

教育環境では、家庭、地域、学校の連携により、地域で子どもを育てるためのコミュニティ・スクールを県下に先駆けて研究し、平成27年度から町内3小学校、1中学校で導入し、英語教育の充実などとあわせ、次世代を担う子どもたちが、健やかに成長できる「昭和教育」の実現を目標としてまいりました。また、福祉事業としましては、中学校3年生までの医療費無償化や給食費の保護者負担の軽減、放課後児童クラブの受け入れを小学校6年生まで拡大するなど切れ目のない子育て環境の整備を積極的に進めております。また、高齢者が、地域や社会との関係性を維持する

ことも重要であるため、百歳体操をはじめとした町民の皆さまの交流の場をつくるほか、声かけ見守り運動を推進して、身近な支えあいの仕組みづくりをすすめています。



コミュニティ・スクール(ゲストティーチャー)

昨年12月8日には、山梨県町村会と山梨大学が協働した地域の農業、食、経済の問題解決と若者の定着促進により持続的に繁栄する地域社会の構築を目的とする連携リレーシンポジウムが開催されました。2班に分かれた学生が、豊富な水資源を活用した地下水のブランド化や地下水と触れ合える親水空間の創造など我々とは違った目線での提案に感心しました。今後も山梨大学とは、包括的連携協定により、地下水資源の有効な活用や均衡ある発展に資する土地利用計画などについて、活力ある地域社会の形成、発展を目指

して、緊密な連携を取り、研究を行ってまいります。

今後は、2027年に開業が予定されているリニア中央新幹線山梨県駅へのアクセス道路として、都市計画道路・昭和玉穂中央通り線の建設をはじめ、町内の補助幹線道路の整備を進め、さらなる交通ネットワークの形成を図っていききたいと思います。

成長を続ける本町の行政事務の効率化、多様化する住民ニーズに対応するため、来年度昭和町第6次総合計画後期計画を策定し、まち・ひと・しごと創生総合戦略において、町の実情に応じた施策を行ってまいります。

増加する児童・生徒に対応するため、昭和町立学校給食センターの増築を行いました。公共施設のあり方を検討するための長期保全計画により、町民の皆様の拠り所となる生涯学習施設の整備、将来を担う子どもたちの施設、役場庁舎や総合会館の整備の検討を、財政状況とともに包括的、中長期的な視点で検討していく必要があります。



昭和I.C (昭和町航空写真)

先人の皆様が築いてこられたこの昭和町は2021年には、町政施行50周年を迎えます。「豊かなまちの誇りを次の半世紀へ」つなげていき、子どもから高齢者まで暮らしやすさナンバーワンを目指して、町民の皆様の声をよく聞きながら町政運営に努めてまいります。

市町村リレー

まちづくり 夢づくり

富士川町 44

MACHIZUKURI
YUMEZUKURI

富士川町の紹介

富士川町は、平成22年3月8日に、増穂町と鵜沢町との合併により誕生した、甲府盆地の南西部に位置する町です。

本町には、日本三大急流のひとつで町名の由来にもなっている富士川が流

暮らしと自然が輝く

交流のまちを目指して

れており、この富士川に沿って集落が発達してきました。

また、本町の総面積は112・00平方キロメートルで、その面積の8割以上が山林に覆われており、西には櫛形山や源氏山などの2,000メートル級の山々がそびえ、それらを源とする戸

川や大柳川などが町内を横断し、人々の生活を潤ってきた自然豊かな環境にあります。

かつて富士川舟運を中心として物資の運搬や身延山参詣など、人の往来が盛んであったことから静岡と甲府、あるいは長野方面を結ぶ交通の要衝であ



穂積地区から望むダイヤモンド富士

りました。

現在は、中部横断自動車道の建設が進められており、東海・北陸方面への交通が短縮されます。令和2年内には、新東名高速道路まで延伸される予定であり、今後、交通や物流に大きな変化が見込まれています。

地域資源を活かした観光事業

自然豊かな本町は、県内唯一の日本さくら名所百選の地である大法師公園の「桜」、小室山妙法寺の「あじさい」、原生林や固有種を含めた高山植物の宝庫「櫛形山」、新緑と紅葉の名所「大柳川溪谷」、冬至から元旦にかけ山頂からの日の出が拝める「ダイヤモンド



大法師公園の桜

富士」など、四季折々の自然を楽しむことができます。

中部横断自動車道の全線開通を見据え、本町の玄関口である「道の駅富士川」を中心に、櫛形山を擁し平林トマト（桃太郎）の産地「平林地区」、ダイヤモンド富士の眺望と関東地方で有数のゆずの産地「穂積地区」、新緑と紅葉の大柳川溪谷、郷土料理みみで知られている「五開地区」の3地区を観光三筋と位置

づけ、多くのお客様に立ち寄っていただくよう、既存資源の連携と、地域全体でのおもてなしの心で、魅力ある観光事業の企画・提案を推進しています。



郷土料理「みみ」

また、外国人観光客に向けては、県内の市町村に先駆け4か国語に対応したパンフレットの作成や、QRコードを活用した多言語での観光案内及び観光資源の動画を配信することにより、町の観光事業の推進を図っています。

ICTを活用した住民サービスの向上について

本町では、住民サービス向上のために様々な取組みを行っていますが、その

中でも近年目覚ましい進展を遂げているICTを活用した取組みである「コンビニ交付サービス」と「税金納のキャッシュレス化」について紹介します。

本町では平成24年4月からマイナンバーカードを利用して、住民票の写しや印鑑登録証明書をコンビニエンスストアで取得できる、コンビニ交付サービスを開始しています。

コンビニ交付は住民の利便性を第一に考え、早朝から深夜まで、土日祝日も、最寄りのコンビニエンスストアで、窓口交付より安価に証明書が取得できます。

また、窓口交付時での申請書記入や、本人確認の提示、待ち時間の短縮など煩わしい手間を省き、いつでも必要な時にお安くお手軽にご自分の証明書を取得できるとても有効なサービスとなっています。

今後、様々な活用が示されるマイナンバーカードの普及に伴い、コンビニ交付の利用増加が期待されます。住民の方々により便利にご利用いただき、更なる住民サービスの向上となるよう推進して参ります。

次に地方自治体の税収納における公金の納付方法は、長きにわたり金融機関や自治体窓口での現金納付と口座振替に限られていました。その後、24時間いつでも納付ができるコンビニエンスストアでの納付が普及し、さら

に現金を持たずに支払うことができるキャッシュレス化は、納付方法に大きな変革をもたらすものです。本町では、スマートフォン決済アプリを活用して、納付ができるpaypay（平成30年7月）とLINEPay（令和2年2月）を導入しました。いずれも山梨県内初の試みで、成果が徐々に出てきています。

しかし、システム導入によるコスト面が懸念されますので、今後も慎重に見極めながら納税者のニーズに即した新たな納付方法の導入について検討を行いながら、より効率的な業務の遂行に努めたいと考えています。

公共交通の充実

全国的に高齢化が深刻な問題となり、高齢者の免許返納なども進む中、車社会と言われる山梨県内においては、移動手段の確保、公共交通の充実が急務となります。本町では公共交通の充実に力を入れて取り組んでいるところであり、ＪＲ身延線と接続し、市街地と最寄の駅までを運行する「コミュニティバス」、休・祝日に運行し、鯉沢口駅を起点に中山間地域とを結ぶ「ホリデーバス」、そして平日は、中山間地域と市街地を結ぶ定時定路線と一定のルールの中で予約をして、自由に乗降することができる「デマンド交通」の3つの

体系で運行しています。

それぞれ、通勤通学などで電車をよく利用する方、医療機関の受診や買い物に利用する方、用途は異なりますが、いずれも利用者からは、「便利である」、「運行の継続を望む」などの意見をいただいています。今後もさらに高齢化が進むことが予想され、高齢者の移動手段の確保が求められますので、日々の交通手段を確保する役割を担う中で、民間交通事業者と連携を図りながら、より充実した公共交通政策を進めていきたいと考えています。

子どもの育ちと子育て家庭を

地域全体で支えるまち

本町では、「子どもの育ちと子育て家庭を地域全体で支えるまち ふじかわ」を目指し、次代を担う子どもたちが、健やかに成長していくため、また、親になる世代が希望をもって安心して子どもを産み育てることのできる環境づくりとして、子育て支援施策を先進的・重点的に取り組んできました。不妊治療費の助成、産前産後ケアセンター利用費の助成、保育料の軽減、病後児保育、学校給食費の補助など、また、平成27年度からは18歳までの医療費窓口無料化を実施しています。

昨年4月には、建設を進めていた富士川町児童センターがオープンとなり

ました。

このことにより、児童センターに併設する放課後児童クラブにおいて、学年ごとの遊

びや学習ができる環境となり、支援員による活動内容も充実してきています。

また、乳幼児と保護者の遊びの場「子育てひろば」や育児教室、児童生徒の遊びと学びの場も充実しており、利用者の増加とともに、子どもや保護者同士の交流の場にもなっています。さらに、専門の支援員による基本型子育て世代包括支援センターも設置し、専門職による母子保健型子育て世代包括支援センターとの連携により、きめ細やかで切れ目のない子育て支援体制の構築に取り組んでいるところです。

安全で安心な給食の提供

学校教育関係の事業では、安全で安心な給食の提供と効率的な施設運営を図るため、町内の小中学校5校の給食機能を集約する、学校給食衛生管理基準に適合した「学校給食センター」の



富士川町児童センター

整備を進めており、本年8月の供用開始を目指しています。

学校給食センターには、調理室や食物アレルギーのある子どもに対応した「アレルギー専用調理室」のほか、食育学習ができる研修室や施設を訪れる子どもたちが給食に興味を持てるよう、2階から給食調理室が見学できる通路を備えています。

また、災害時には炊き出しができるよう備蓄米と非常用電源を確保し、衛生的な環境で安全な給食を提供する施設であるとともに、地域の防災力の強化に寄与できる施設としても活用していきます。

今後、学校現場から調理員の姿が見えなくなっても、美味しい給食を食べさせたい思いが子どもたちに伝わるよう、変わらぬ気持ちで給食提供に取り組んでいきたいと考えています。

生涯スポーツの拠点を目指して

平成31年4月1日から一部を供用開始した、富士川いきいきスポーツ公園は、ウレタン舗装による400メートルトラックを8レーン配置した、本格的な陸上競技場をはじめ、グラウンド中央には、人工芝によるサッカー場を備えています。

陸上競技場には、走幅跳、走高跳、砲丸投げの施設を設置し、トラックは、



富士川いきいきスポーツ公園

好記録が期待できる青色を基調としました。また、サッカー場は、一般用11人制1面（少年用8人制2面）を配置し、緑色の色彩による鮮やかなデザインとしています。

富士川町は、スポーツの普及と振興を積極的に進めており、山梨県体育祭りでは、町村の部において総合優勝10連覇を達成するなど、スポーツの盛んな町として注目されているところです。

また、本町は、町の皆さんがスポーツを通じて、親睦と融和を図るため、全町民を対象とした、町民体育祭りを開催しており、本年度は、富士川いきいきスポーツ公園で大きな盛り上がりの中に開催することができました。

富士川いきいきスポーツ公園が、生涯スポーツの拠点として、県内外の誰もが利用でき、また、

地域のシンボルとして多くの皆さんに愛される場所となるよう、様々なイベントに取り組んでいきます。

終わりに

冒頭で紹介したとおり、富士川町は、平成22年3月8日に誕生した町で、本年3月8日は、ちょうど満10歳を迎える記念すべき日となります。このことから、本年度は10周年を記念した「山車巡行祭り」をはじめとした多彩な記念イベントを開催してまいりました。

また、友好交流都市の締結やマスコミキャラクターの作成、観光大使の委嘱を行うなど、新たな取り組みに挑戦することにより、さらなる発展を目指していきます。

本町の様々な魅力ある資源の活用と時代の変革にあわせた新たな取り組みの融合により、町の将来像である「暮らしと自然が輝く交流のまち」を目指して町政を推進していきます。



町制施行10周年「山車巡行祭り」

仲良くしよひ

甲

府で生まれ、中学2年の時に親の転勤で東京に引っ越しました。それゆ

え、山梨に対する感じ方は中途半端。良い言葉で言い換えると、客観的に見ることができるのではないのでしょうか。

時事通信社に入ったのは1985年。18年間ほど中央官庁を中心に取材しました。2012年5月から3年間は甲府支局長。17年7月から2年間、静岡総局長を務めたとき、ずいぶん山梨を意識することがありました。今回、せっかくの機会をいただいたので、外で感じる山梨を、特に、静岡からの視線で述べるつもりです。個人的な見解ですが、あながち間違いではないと思います。

まず、山梨と静岡の違いについて。海の有無以外に、誰でも分かる最大の違いは気候です。秋から春まで底冷えして凍える山梨。14年2月の大雪では陸の孤島になりました。コンビニの棚が空っぽになったり、信号機が雪の重さで折れてしまったり、想像もしなかったことが目の前で起きました。それに比べ、静岡では、真冬でもストーブやエアコンで部屋を暖める必要は全くありませんでした。

その静岡で、甲府から転勤してきた他業種の人と知り合いになりました。彼は

言言 提言

Kugen Teigen

前村 敦

atsushi maemura

一般社団法人地方行政調査会事務局次長
(時事通信社元甲府支局長)



「山梨にいたときは、当たり前のように集まりがあって、それに入ればよかった。

でも静岡では自分からそういった仲間を集めないといけない」と話していました。

そこで、一緒に静岡と山梨の両方に関わりのある人を中心に異業種交流会をつくりました。「無尽」(説明の必要はないでしょう)が根付いている山梨では、至る所に「集まり」があります。今では、もともとの役割である金融の仕組みとしての機能は薄れたようですが、人と人との交流する場である無尽が今でもここかしこにあることは他の地方から見れば幸せかもしれません。

静岡との結び付きも考えてみます。接しているの方言は似ています。例えば「がとー」「ぬくとい」「(鍵を)かう」などは互いに通じるでしょう。これ以外でも、私見ですが、動詞の終止形に丁寧な断定の助動詞「です」を付けることが特徴的です。例えば「行く」を丁寧に言えば、普通は「行きます」ですが、山梨や静岡では「行くです」と言う人がいます。「行く」ではぶつきらばうだと感じるからでしょうか、「です」を付けて丁寧な言い方にしているような気がします。

山梨県の県有地が静岡市清水区にあります。かつて、富士川などを通じて信州・甲州方面から運ばれた米が、いったん置

かれた場所です。今も甲州廻米置場の碑が立っています。古くから両地域の行き来が盛んだった証拠でしょう。交通の面では、中部横断自動車道がとても重要な結び付きになります。近く山梨と静岡を結ぶ路線が全面開通し、静岡県庁から山梨県庁まで2時間40分程度かかっていたのが、1時間40分程度に短縮されるそうです。経済効果がどのくらいあるのか、

専門家ではないので分かりませんが、移動時間の短縮だけではなく、観光客の増加や雇用拡大、人口減少対策などに役立つことが期待されています。

時事通信社の行政情報サイトJAM Pの記事を見ると、長崎幸太郎山梨知事はミシュランガイドの山梨・静岡版の発行を目指しています。川勝平太静岡知事は、山梨と一体となった「富士の国」づくりに取り組んでいます。言い尽くされていますが、両県は富士山だけでも仲良くできる関係にあります。

こうした違いやつながりを踏まえ、手を携えて発展を目指す方法があると信じます。私も、マスメディアの世界に長くいます。メディアとは「媒介者」。これからも山梨と静岡の媒介者として何ができるか、模索していこうと思っています。